テレパシー

伊藤貴晴　作

【登場人物】

　　少女

　　王様

　　狐

　　女

　　※少女と女は同じ役者が演じる

【１】

　　夜。森の中。テーブルと椅子がある。

　　王様が椅子に座っている。

　　少女、登場。コンビニエンスストアの袋を提げている。

王様　　ハロー

少女　　ハロー

王様　　いい夜だ

少女　　誰？

王様　　私か？

少女　　ええ

王様　　私は王様だ

少女　　王様？

王様　　そうだ

少女　　何をしてるの？

王様　　別に何も。今夜は星がよく見える

　　間。

王様　　時に少女よ

少女　　え？

王様　　君は何をしているのだ

少女　　怪しい光を見たから

王様　　怪しい光？

少女　　それを探しにきたの

王様　　どんな光だ？

少女　　ピカピカ光ってて、空を飛んでた。でも光がだんだん弱くなってきて、私の家の裏山に落ちたの

王様　　なるほど

少女　　何か知ってるの？

王様　　さあ、どうだろう

少女　　え？

王様　　私が知っているか知っていないか答える前に、君の意見を聞こうじゃないか

少女　　私の？

王様　　君はどう思う？　その光について

少女　　見間違いでなければ

王様　　見間違いでなければ

少女　　ＵＦＯ

王様　　ＵＦＯ？

少女　　そう

王様　　ＵＦＯとは何だ？

少女　　ＵＦＯを知らないの？

王様　　ああ、知らない

少女　　未確認飛行物体だよ

王様　　未確認飛行物体

少女　　宇宙人の乗り物だよ、多分

王様　　宇宙人

少女　　そう、宇宙人

王様　　宇宙人か

少女　　やっぱり見間違いかな

王様　　なぜ？

少女　　いるわけないよね、宇宙人なんて

王様　　いや、そうとも言い切れないぞ

少女　　え？

王様　　なるほど。いや、まだまだ勉強不足だが、ようやく事態が把握できてきた。そうか、宇宙に住むから宇宙人か。確かにそう言えなくもない

少女　　何を言ってるの？

王様　　だとしたら、さっきの言葉、未確認……

少女　　未確認飛行物体

王様　　そう、未確認飛行物体。宇宙人という言い回しは間違っていない。この宇宙に住む者全てが宇宙人だ。そうだろ？

少女　　ええ、まあ

王様　　だが、未確認飛行物体というのはよくない

少女　　どうして？

王様　　だってそうだろう。未確認とは「未だ確認せず」ということだ。君が光を確認した時点で、それはもうＵＦＯじゃない。ただの宇宙船だ

少女　　宇宙船？

王様　　さっきの質問の答えだ。私はその怪しい光についてよく知っている

少女　　どういうこと？

王様　　その光は、私が乗ってきた宇宙船だ

少女　　宇宙船？

王様　　ああ

少女　　あなたが乗ってきたの？

王様　　そうだ

　　間。

王様　　釈然としないようだな

少女　　そうだね

王様　　ずいぶん未開の地に降り立ってしまったようだ。まさか他の惑星との交流が全くないとは

少女　　そりゃ、宇宙人から見れば、文明は遅れてるかもしれないけど

王様　　理解が早くて助かる

少女　　でも、あなた、全然宇宙人に見えないよ

王様　　そんなことはない

少女　　だって見た目は普通だし、珍しくもないし、バカっぽいし

王様　　言葉を慎みたまえ。いくら私が温厚でも限度がある。先ほどから君の態度は何だ。いい加減にしたまえ

少女　　そんなこと言われても、宇宙人なんて初めて会ったんだよ。どうしたらいいの？

王様　　初めに言っただろう。私は王様だ

少女　　王様？

王様　　王様は敬ってしかるべき対象だろう

少女　　はあ

王様　　君は王様に対する口のきき方も知らんのか

少女　　知らん

王様　　まあいい。じっくり教えてやる。ところで、それは何だ？

少女　　どれ？

王様　　その、持ってる白い物だ

少女　　ああ、コンビニの袋だよ

王様　　コンビニとは何だ？

少女　　コンビニエンスストア

王様　　コンビニエンスストア

少女　　そう

王様　　コンビニエンスストア

少女　　便利なお店だよ

王様　　コンビニエンスストア

少女　　もういいよ

王様　　何が入ってるんだ？

少女　　夜食

王様　　夜食？

少女　　お腹が空いたから、買ってきたんだ。牛乳とメロンパン

王様　　牛乳は分かるぞ。牛の乳だな

少女　　うん

王様　　そしてこれは

少女　　メロンパン

　　王様はメロンパンの袋を開ける。

少女　　え？

　　王様はメロンパンを食べる。

少女　　あっ！　こらー！

王様　　ん？

少女　　おい

王様　　ん？

少女　　座れ

王様　　え？

少女　　座れ

王様　　あ、ああ

　　王様は座る。

少女　　お前、いい加減にしろよ

王様　　え？　何が？

少女　　何で食べるの？　ねえ、何で勝手に食べるの？

王様　　メロンパン……

少女　　え？

王様　　初めて見たから、ちょっと興味が……

少女　　聞こえない

王様　　そんなに怒ることないだろ

少女　　あんたがメロンパン食べなかったらこんなに怒ってないよ

王様　　パン一個だろ

少女　　パン一個だよ

王様　　パン一個でそんなに怒らなくても

少女　　パン一個で命を落とす人間が世の中にどれだけいると思ってるの？　貧困に苦しむ国ではパン一個食べられなくてみんなバタバタ死んでいくんだ。スラム街の子どもはパンを盗んで捕まって路地裏で袋叩きにされて牢屋にぶち込まれるんだよ

王様　　それは全然関係ない話のような気がするんだが

少女　　私はね、メロンパンが大好きなの

王様　　はい

少女　　世の中のあらゆる食べ物の中でメロンパンが一番好きなの。どうして好きなのか自分でも分からないけど、とにかくメロンパンが大好きなの。分かる？　分かるでしょ？

王様　　分かります

少女　　あんたにメロンパンの良さが分かるわけないでしょ

王様　　いや、でも

少女　　私がどんな思いでメロンパン買ってきたか分かる？

王様　　え、分かり……ません

少女　　あんた王様なんでしょ？

王様　　そうです

少女　　王様だったら民衆の気持ちを理解しなきゃいけないよね

王様　　そうです

少女　　だったら私の気持ち、理解してよ

王様　　はい

少女　　でね、勉強してたの。勉強してるとお腹空くじゃない。でも夜中に何か食べると太るでしょ。やっぱり女の子だから体重とかプロポーションとか気になるの

王様　　ははん

少女　　何それ？

王様　　え？

少女　　「ははん」って何？

王様　　え、あの

少女　　どういう相槌？

王様　　いや、どういうと言われても

少女　　私が太ることに同情してくれたの？　それとも、そんなこと気にしても無駄だって言いたいの？

王様　　いや、ダイエットなんてしなくてもいいと思うぞ

少女　　そんな気休め言われてもちっとも嬉しくない。でね、どうしても我慢できなくなって、がんばった自分にご褒美をあげたくて、牛乳とメロンパンを買いに行ったの

王様　　ははん

少女　　その「ははん」って言うの、やめて

王様　　でもこれは癖だから

少女　　そしたら空で何か光って、裏山に落ちたから、様子を見に来たの。そしたら変な王様が座ってて、私のメロンパン食べたの

王様　　はは……ん

少女　　おいしかった？　メロンパン

王様　　え？　ああ

少女　　これ以上おいしいものはないってくらい、おいしかった？

王様　　いや、そんなことは……なきにしもあらず

少女　　私の幸せを奪った罪の重さが分かった？

王様　　ああ

少女　　謝って

王様　　すみませんでした

少女　　食べ物の恨みは怖いよ

王様　　ひとつ質問していいか？

少女　　何？

王様　　メロンパンっていうのはメロン味じゃないのか？

　　間。

少女　　お前、いい加減にしろよ

王様　　え？

少女　　メロンパンっていうのはね、表面のビスケット生地がメロンの模様に似てるからメロンパンっていうの。メロンの味なんかするわけないでしょ

王様　　そうなのか

少女　　あんた、そんなことも知らないで王様やってるの？　メロン味のメロンパンなんて邪道だよ

王様　　知らなかった

少女　　メロンパンのなんたるかも知らないで私のメロンパン食べたの？　メロンパンなめんじゃないよ。謝りなさい。今すぐメロンパンに謝りなさい

王様　　え？　メロンパンに？

少女　　ほら

王様　　すみませんでした

少女　　もういいよ。怒ったら喉渇いちゃった

王様　　ははん。何か飲むか？

少女　　何かあるの？

王様　　紅茶がある

少女　　今日はいい。もう遅いし。牛乳あるし。また明日にする

王様　　明日？

少女　　メロンパン弁償してよ

王様　　ああ、そうか

少女　　明日、用意しといてね

王様　　よし。とびきりのメロンパンをご馳走しよう

少女　　ところでさ

王様　　何だ？

少女　　あんた、何者？

王様　　私は王様だ

【２】

　　昼。王様と少女が椅子に座っている。

王様　　どうだった？

少女　　まあまあだね

王様　　自信作だったんだがな

少女　　まさか自分で作ると思わなかった

王様　　私の宇宙船では何でも作れる。作り方が分かればメロンパンなどお茶の子さいさいだ

少女　　作り方はどうやって調べたの？

王様　　宇宙船にデータベースがある。私の宇宙船は優秀なのだ。常に最新の情報をキャッチしてくれる。でなければ知らない惑星を旅することなどできない

少女　　なるほどね

王様　　この惑星のことも大体理解した。地球というらしいな

少女　　そうだよ

王様　　発展途上だが、なかなか興味深い星だ

少女　　聞きたいことがいっぱいあるんだけど

王様　　言ってみろ。何でも気前良く答えよう

少女　　本当に宇宙人なの？

王様　　ははん、えらく根本的な質問だな。確かにこの星以外の生態系の存在を知らない君たちにとっては信じられないかもしれないが、現に私はこうしてここにいるじゃないか

少女　　だって、ただの変わった人にしか見えないんだもん

王様　　なるほど。全くの偶然なのだが、私と君たちとの姿は非常に似通っている。ははん、よろしい。それではひとつ、私が君たちと違うところを見せてあげよう。手を出しなさい

少女　　こう？

　　王様は少女の手を握る。

王様　　聞こえたか？

少女　　「ハロー」

王様　　そうだ。私は今、この手から「ハロー」という言葉を発信した。これがテレパシーだ

少女　　すごい。こんなことできるの？

王様　　触れていればそんなに難しいことじゃない。一般的にコミュニケーションというのは音声または文字を使って行われる。ただし今のはちょっと違う。触覚に訴えるコミュニケーションだ

少女　　触覚に訴える？

王様　　声はどのようにして伝わるか知っているか？

少女　　空気が振動する

王様　　その通り。では、振動以外で物体を伝わっていくものは何だ？

少女　　分からない

王様　　熱だよ

少女　　熱？

王様　　そうだ。私は手のひらの温度をコントロールして波長を作り、君に伝えたんだ

少女　　温度をコントロール。そんなことできるの？

王様　　現にやってみせたではないか

少女　　でも

王様　　見た目が似ていても、全く同じ生物ではないということだ

少女　　そうなんだ

王様　　納得したか？

少女　　うん。すごいね

王様　　すごいだろう

少女　　でも、触らなきゃいけないの？

王様　　ああ

少女　　離れた相手にテレパシーは送れないの？

王様　　送れないな

少女　　じゃあ、あんまり意味ないね

王様　　うん、意味ない

少女　　大したことないね

王様　　バカにするな。結構便利なんだぞ、これは

少女　　どこが？

王様　　声を出さないからな。内緒話に最適だ

少女　　ああ、それは確かに

王様　　それに、声に出すのとは違う独特の温かみがある

少女　　へえ

王様　　どうだ、思い知ったか

少女　　違うのってそれだけ？

王様　　どういうことだ？

少女　　地球人と違うのは、テレパシーが使えることだけ？

王様　　そうだ

少女　　ふーん

王様　　他に質問は？

少女　　どうして地球に来たの？

王様　　ははん。なかなか良い質問だ。私は旅をしているのだよ

少女　　旅？

王様　　そうだ

少女　　どうして？

王様　　ある女を捜しているんだ

少女　　女？

王様　　ずいぶん捜したが、まだ見つからない

少女　　どういう人なの？

王様　　どういう……どういう人だろう？

少女　　え？　どういうこと？

王様　　よく分からないんだ

少女　　分からない？

王様　　うん、分からない

少女　　よく分からない人を捜してるの？

王様　　そうだ

少女　　どうして？

王様　　捜さなければいけないから

少女　　だから、それはどうして？

王様　　捜さなければいけないからだ

少女　　どういう関係なの？

王様　　いや、まあ、まだ関係っていうほどでは

少女　　会ったことはあるの？

王様　　もちろんだ。美しい女だったよ。それがある日、突然いなくなってしまった

少女　　ふーん

王様　　そういうえば、君によく似ている

少女　　え？

王様　　彼女だよ。雰囲気かな。彼女は君にどこか似ているところがあったよ

【３】

　　回想。王様の星。

　　王様がいる。女、登場。

女　　　ハロー

王様　　ハロー

女　　　いい夜ね

王様　　誰だ？

女　　　私？

王様　　どこから入った？

女　　　そっちから

王様　　何をしている？

女　　　別に何も

王様　　何も？

女　　　そう、何も

王様　　私が誰か分かっているのか？

女　　　分かってるよ、王様でしょ

王様　　王の部屋に勝手に入っていいと思っているのか？

女　　　お邪魔します

王様　　遅いよ

女　　　王様、一人？

王様　　呼べばすぐに人が来る

女　　　呼ばなきゃ来ないでしょ

王様　　呼べばお前は牢屋にぶち込まれる

女　　　そんなに怖い顔しないでよ

王様　　警戒するのは当たり前だ

女　　　この星、ずいぶん変わったね

王様　　え？

女　　　文明も進んだみたいだし。よその星にも行けるようになった？

王様　　お前はよその星から来たのか？

女　　　まあ、そんなとこかな

王様　　そうなのか

女　　　ずいぶん変わったけど、きれいな星。それは変わらない

王様　　この星に来たことがあるのか？

女　　　うん

王様　　いつ？

女　　　ずっと前

王様　　ほう

女　　　素敵な宮殿ね

王様　　そうだろう

女　　　一人で住んでるの？

王様　　そうだよ

女　　　寂しいのね

王様　　そんなことはない。宮殿には私に仕える者がたくさんいるし、たくさんの国民もいる

女　　　でも、一人なのね

王様　　ああ、そうだな。君はこの星に何をしに来たんだ？

女　　　私は旅をしてるの

王様　　旅？

女　　　宇宙を旅してるの、ずっと

王様　　君も一人なのか？

女　　　ええ、そうね

王様　　この星にはしばらくいるのか？

女　　　そのつもり

王様　　だったら、ひとつ頼みたいことがあるんだが

女　　　何？

王様　　何かおもしろい話を聞かせてくれないか？

女　　　話？

王様　　実のところ、一人で退屈してたんだ。旅をしてるんだったらいろんな体験をしてるだろ？

女　　　そうね、おもしろい話か

王様　　どうだ？

女　　　いいよ

王様　　そうか

女　　　でも、明日ね

王様　　明日？

女　　　今日はもう遅いから。また明日来る

王様　　分かった。待ってるぞ

女　　　おやすみなさい

王様　　おやすみ

【４】

　　昼。

　　少女、登場。

少女　　ハロー。あれ？　いないの？　王様？

　　王様、狐を連れて登場。

狐　　　痛いです、放してください。痛いであります

王様　　ハロー、少女よ。見ろ、捕まえたぞ

少女　　これ、何？

王様　　狐だ

少女　　狐？

狐　　　狐です。初めまして

少女　　どうしたの？

王様　　山で見つけたから捕まえた

狐　　　捕まりました

少女　　これ、本当に狐？

王様　　そうだ

少女　　そうは見えないけど

王様　　なぜだ。どこからどう見ても狐じゃないか

少女　　そう？

王様　　おい、お前

狐　　　は、何でありますか

王様　　お前は何だ？

狐　　　狐であります

王様　　ほら、狐だろ？

少女　　何で狐が喋るの？

王様　　狐は喋るだろう

少女　　喋らないよ

王様　　でも喋ってるじゃないか

少女　　でも普通は喋らないよ

王様　　おい、狐

狐　　　は、何でありますか

王様　　お前は何で喋るんだ

狐　　　喋りたいからであります

王様　　喋りたいんだって

少女　　普通は喋れないでしょ

王様　　そんなことはないだろ

少女　　尻尾は？

王様　　尻尾？

少女　　尻尾はないの？

王様　　おい、尻尾はどうした

狐　　　自分に尻尾はないであります

王様　　ないんだって

少女　　狐だったらあるでしょ、尻尾

王様　　おい、お前

狐　　　何でありますか

王様　　尻尾を生やせ

狐　　　了解であります。はっ

　　間。

狐　　　無理であります

王様　　馬鹿者。貴様それでも狐か

狐　　　申し訳ありません

少女　　何でそんな軍隊みたいな喋り方なの？

王様　　そうだ、鳴き声を聞いたら狐だと分かるだろう。おい、鳴いてみろ

狐　　　コーン

王様　　ほら、狐っぽい

少女　　ぽいじゃダメでしょ

王様　　ぽいはダメなのか

少女　　だって狐じゃないじゃん

狐　　　コーン

王様　　ほら、狐そっくりじゃないか

少女　　そっくりってことは狐じゃないんでしょ？

王様　　あ、そうか

狐　　　コーン

王様　　うるさい、黙ってろ

狐　　　申し訳ありません

少女　　それに、それ何？

王様　　それは何だ

狐　　　眼鏡であります

少女　　何で眼鏡してるの？

狐　　　視力が悪いからであります

王様　　視力が悪いのか

　　王様は狐から眼鏡を取り上げる。

狐　　ああ、何も見えない

　　王様はしばらく狐をいじめた後、眼鏡を返す。

王様　　狐なんだから眼鏡をかけてるのが当たり前じゃないか

少女　　狐は眼鏡かけないでしょ

王様　　そんなことはない。ほら、いるだろう、メガネザルとか

少女　　サルじゃん

王様　　あ、サルか

少女　　どっちかって言うとサルっぽいかな

王様　　なるほど、サルか

少女　　いや、でも

王様　　お前はサルか？

狐　　　違うよ

王様　　違うって

少女　　うん、サルじゃないと思う

王様　　サルじゃないのか？

少女　　うん、サルじゃない

王様　　ははん、さては貴様、サルじゃないな？

狐　　　だからそうやって言ってるだろ

王様　　貴様、何だその口の聞き方は

狐　　　申し訳ありません

王様　　貴様それでも軍人か

狐　　　申し訳ありません

少女　　変なの

王様　　よし、せっかく捕まえたんだ。食べよう

少女　　何を？

王様　　こいつを

少女　　え？　本当に？

王様　　何鍋がいい？

少女　　鍋なんだ

王様　　狐といえば鍋だろう

少女　　本当に食べるの？

王様　　そうだよ。おい、お前

狐　　　は、何でありますか

王様　　キムチ鍋でいいか？

狐　　　いや、辛いのは苦手であります

王様　　仕方ない、辛いのはやめよう

狐　　　ありがとうございます

少女　　ねえ、いいの？

狐　　　何が？

少女　　鍋

狐　　　うん、辛くなかったら

少女　　でも、食べられるんだよ

狐　　　うん、鍋を食べられる

少女　　え、そうじゃなくて

狐　　　食べられないの？

少女　　いや、食べるよ

狐　　　うん、食べるよね

少女　　でも、あなたを食べるんだよ

狐　　　え？　自分を？

少女　　うん

狐　　　自分で自分を食べる？

少女　　いや、そうじゃない

狐　　　それはちょっと難しい

少女　　あなたは食べない

狐　　　自分は食べない

少女　　ちょっと待って。一人称が自分だとすごく分かりにくい

狐　　　え？　どういうこと？

少女　　だから、あなたを鍋にして食べるの

狐　　　自分が鍋になる

少女　　そう

狐　　　鍋にはなれない

少女　　鍋の具になるの

狐　　　鍋の具になる

少女　　そう

狐　　　誰が食べるの？

少女　　私たちが

狐　　　あなたたちが、自分を、食べる

少女　　そう

狐　　　どうして？

少女　　話聞いてた？

狐　　　聞いてなかった

王様　　さあ、狐よ。覚悟はいいか？

　　狐、退場。

少女　　あ、逃げた

王様　　逃がすか。待て

少女　　ちょっと待ってよ

　　王様、退場。少女、椅子に座る。

　　間。

　　王様、狐を連れて登場。

狐　　　助けて

少女　　本当に食べるの？

王様　　もちろんだ

少女　　かわいそうだよ

王様　　そうか？

少女　　うん

王様　　おい

狐　　　何？

王様　　お前はかわいそうか？

狐　　　うん

王様　　そうか、かわいそうか。かわいそうに

狐　　　え？　それだけ？

王様　　それだけだ。さ、食べよう

狐　　　ちょっと待ってよ

王様　　何だ？

狐　　　僕の意見も聞いてよ

王様　　よし、聞こう

少女　　あれ？　喋り方、変わったね

狐　　　あ、知らない人と会うと緊張してさっきみたいな喋り方になるんだけど、普段はこんなんです

王様　　言いたいことはそれだけか

狐　　　今のは違うよ

王様　　違うのか

狐　　　うん

王様　　嘘か

狐　　　え？

王様　　お前、騙したな

狐　　　違うよ

王様　　何が違うんだ

狐　　　僕が言いたいのはそういうことじゃなくて

王様　　お前の話など聞いていない

狐　　　聞いてよ

王様　　断る

少女　　聞いてあげようよ

王様　　聞こう

狐　　　食べないでください

王様　　断る

狐　　　ちょっと待って

王様　　待たない

狐　　　待って、お願いだから

王様　　何だ？

狐　　　僕なんか食べてもおいしくないよ

王様　　そんなことないだろ

狐　　　でも、ガリガリだし、肉ついてないし

王様　　どう思う？

少女　　狐でしょ？　おいしくないことはないと思うけど

王様　　おいしくないことはないそうだ

狐　　　あの子の方がおいしいと思うよ

王様　　そうか？

狐　　　うん

王様　　少女よ、お前はおいしいか？

少女　　食べてみないと分からないけど

王様　　食べてもいいか？

少女　　ダメ

王様　　ダメだそうだ

狐　　　僕の意見も聞いてよ

王様　　お前の意見など聞いていない

狐　　　助けて

少女　　ねえ、かわいそうだよ

王様　　そうか？

少女　　助けてあげて

狐　　　お願いします

王様　　耳だけ食べていいか？

狐　　　ダメです

王様　　どこならいいんだ？

狐　　　どこ？　……どこだろ？

王様　　どっかあるだろ？

狐　　　ないよ

王様　　そんなわがままが通用すると思ってるのか？

狐　　　ごめんなさい

少女　　もういいじゃない

王様　　仕方ない、許してやろう

狐　　　ありがとうございます

少女　　よかったね

狐　　　うん

少女　　君はこの山に住んでるの？

狐　　　そうだよ。君は？

少女　　あの辺。あの辺に私の家がある

狐　　　近いね

少女　　うん、近いよ

王様　　私の家はあっちの方だ。近くはないが、まあ、行けないことはない

狐　　　あっちってどっち？

王様　　あっちだ

狐　　　どこ？

王様　　この星からでは見えない

狐　　　よその星なの？

王様　　そうだ

狐　　　よそ者か

王様　　よそ者？

少女　　うん、よそ者だよ

狐　　　何だ、よそ者か

少女　　そうだよ、よそ者なんだよ

王様　　何だ、この疎外感は

狐　　　あんた、何者なの？

王様　　私は王様だ

狐　　　ふーん

　　間。

王様　　おい

狐　　　何？

王様　　私は王様なんだ

狐　　　うん

王様　　私が王様だってことが分かったら、もっとびっくりするだろう？

狐　　　いや、別に

王様　　びっくりするだろう

狐　　　そうかな？

王様　　もう一度言おう。私は王様だ

狐　　　ふーん

王様　　びっくりしろよ

狐　　　うわあ

　　間。

王様　　それはびっくりしたのか？

狐　　　うん

王様　　バカにしてるのか？

狐　　　うん

王様　　くすぐってやる

　　王様は狐をくすぐる。

狐　　　やめて、くすぐらないで

少女　　王様の星ってどんな星なの？

王様　　私の星か？　そうだな、自然が豊かな、美しい星だ

少女　　そうなの？　機械がいっぱいじゃないの？

王様　　もちろん科学はこの星より進歩しているが、我々は自然を大事にしている

狐　　　鉄腕アトムとかいないの？

王様　　いないな

少女　　何か珍しいものとかないの？

王様　　どうだろうな

少女　　タイムマシンは？

王様　　ない

狐　　　ドラえもんは？

王様　　いない

狐　　　ウルトラマンは？

王様　　いない

狐　　　つまんないの

少女　　そういえば、宇宙船はどこにあるの？　見たことないけど

王様　　あっちにある

少女　　あっち？

狐　　　どれ？

王様　　見つからないと思うぞ

少女　　どうして？

王様　　木の形をしているからな

少女　　木？

狐　　　何で？

王様　　こんなところに宇宙船があったら目立ってしょうがないだろう

少女　　それもそうだね

王様　　木を隠すなら森の中だ

狐　　　ねえ

王様　　何だ？

狐　　　王様はここで何してるの？

王様　　何をしているか？　別に何も

狐　　　何も？

王様　　昼間はここでお茶を飲んでボーっとして、夜になったら寝る

狐　　　それだけ？

王様　　それだけだ

狐　　　どうして？

王様　　人生、たまには何もしない時間も必要だぞ

狐　　　……うん

少女　　このテーブルとか、どうしたの？

王様　　作った

少女　　作ったの？

王様　　日曜大工は大好きだ

少女　　王様、何しに来たの？

王様　　邪魔者みたいに言うなよ

少女　　でも、王様のこと何も知らない

王様　　私だって君のことは何も知らない

少女　　私は、高校生

王様　　高校生？

少女　　そう

王様　　ははん、そうか、学生か。お前は何だ

狐　　　狐です

王様　　狐？

狐　　　そうだよ

王様　　本当に狐か？

少女　　それはもういいから

王様　　ははん、よろしい。では、私について色々と聞かせてやろう。まず何を知りたい？

少女　　聞きたいことがいっぱいあったんだけど

王様　　言ってみろ

少女　　段々どうでもよくなってきた

王様　　そんなこと言うなよ

狐　　　王様なんだよね？

王様　　そうだ

狐　　　自分の国があるんだよね？

王様　　そうだ

狐　　　放っといていいの？

王様　　いいんだ

少女　　いいの？

王様　　私がいなくてもあの星は大丈夫だ。王様が一番偉い、それだけ分かっていればいい

狐　　　ふーん

少女　　どうして地球に来たの？

王様　　燃料の補給に来たんだ

少女　　燃料って？

王様　　私の宇宙船は太陽の光を浴びると自動的にエネルギーを生成するようにできている

狐　　　光合成だね

王様　　木の形をしているからな

少女　　太陽高熱発電？

王様　　そんなようなものだ

狐　　　ソーラーパワーだね

王様　　エコだよ、エコ

少女　　それってどのくらいかかるの？

王様　　太陽の光の強さにもよるが、数日といったところか

狐　　　だから暇なの？

王様　　そうだ

少女　　そういうことか

王様　　地球には用があったわけじゃなく、ちょっと寄っただけだ

少女　　燃料の補給が終わったら、また女の人を捜しに行くの？

王様　　そうだ

狐　　　女の人？

王様　　私が捜している女がいるんだ

狐　　　どんな人？

王様　　変な女だよ

少女　　この前と言ってることが違うよ

王様　　綺麗な女だったよ

狐　　　王様の恋人？

王様　　いやあ、まだそんな関係じゃない

狐　　　じゃあどんな関係？

王様　　彼女はある日突然私のところに現れた。聞けば宇宙を旅しているそうじゃないか。私はちょうど退屈していたから、何かお話をしてくれないかと頼んだんだ

少女　　お話？

王様　　変な話だったが、実におもしろかった。それから毎晩私のところへ来るようになったが、ある日突然いなくなった

狐　　　どうして？

王様　　分からない。だから捜しているんだ

少女　　見つけたら、どうするの？

王様　　分からないよ。ただ、もう一度会いたいんだ

【５】

　　回想。

　　王様がいる。女、登場。

女　　　ハロー

王様　　ハロー。また来たな、女よ

女　　　また来たよ、王様

王様　　今日はどんな話をしてくれるんだ？

女　　　どんな話がいい？

王様　　そうだな、胸がスカッとする話がいいな

女　　　そうか。じゃあ何だかモヤモヤする話にしよう

王様　　モヤモヤするのか

女　　　どこかの星で聞いた昔話

王様　　楽しみだ

女　　　桃太郎の話だよ。むかしむかし、あるところにおじいさんとおばあさんがいませんでした。終わり

王様　　終わり？

女　　　終わり

王様　　いなかったのか？

女　　　いなかった

王様　　いようよ

女　　　いた方がいい？

王様　　いた方がいい

女　　　仕方ないな。むかしむかし、あるところにおじいさんとおばあさんがいたりいなかったりしました

王様　　いたりいなかったり？

女　　　いたりいなかったり

王様　　何だそれは

女　　　もう高齢だから、ある日突然亡くなったり

王様　　亡くなったらダメだろう

女　　　ご老体に無理言ったらいけないよ

王様　　そこを何とかしてくれ

女　　　仕方ないな。むかしむかし、あるところにおじいさんとおばあさんがいました。おじいさんが寝たきりなのをいいことに、おばあさんは毎日パチンコに行って年金を食いつぶしていました

王様　　ちょっといいか？

女　　　何？

王様　　真面目に話してるか？

女　　　ううん

王様　　頼むから真面目に話してくれ

女　　　仕方ないな。おじいさんって普通何してる？

王様　　普通は山へ芝刈りに行くんじゃないか？

女　　　芝って何？

王様　　何だろう？

女　　　柴犬？

王様　　いや、違うと思うが

女　　　おじいさんは山へ柴犬を狩りに行きました。猟師だね

王様　　ああ、そうだな

女　　　おばあさんは川へ洗濯をしに行きました。ねえ、何で川に洗濯に行くの？

王様　　え？　何でって

女　　　洗濯機ってないの？

王様　　ない

女　　　貧乏だから？

王様　　昔話だろ

女　　　あ、そうだった。すると川の上流から大きな桃がどんがらがっしゃん、どんがらがっしゃんと流れてきました

王様　　待て待て

女　　　何？

王様　　どんがらがっしゃんって何だ？

女　　　擬音語

王様　　何でそんな音がするんだよ

女　　　桃だから

王様　　桃だからか

女　　　うん。おばあさんは桃を拾って家に帰り、おじいさんと桃を食べました。終わり

王様　　終わり？

女　　　おいしかったです

王様　　え？　終わり？

女　　　どうしたの？

王様　　桃太郎、出てきてないよ

女　　　モヤモヤする？

王様　　モヤモヤする

女　　　じゃあ続きはまた明日ね

王様　　楽しみだ

女　　　おやすみ

王様　　おやすみ

【６】

　　昼。

　　王様・少女・狐がいる。

少女　　変な人

狐　　　うん、変だね

王様　　そうだよ、変だよ

少女　　何その話？

王様　　おもしろいんだよ

少女　　まあ、おもしろいと言えばおもしろいけど

王様　　だろ？

狐　　　何で王様のところに来たの？　その人

王様　　それが分からないんだ

少女　　不思議な話だね

王様　　とにかく私はもう一度彼女に会うために旅をしている

狐　　　でも、その人、どこにいるの？

王様　　分からない

少女　　見つかるの？

王様　　そのうち見つかるさ。見つからなければ諦めるだけだ

少女　　それでいいの？

王様　　人生とはそういうものだろう

少女　　よく分からない

狐　　　手がかりとかないの？　それじゃいつまでたっても見つからないよ

王様　　もちろん無闇に捜しているわけじゃない。ある程度の予想はついてる

狐　　　どんな？

王様　　わが国の古い文献を調べたら、百年くらいの周期で彼女らしき人物が訪れた記録がある

少女　　どういうこと？

王様　　彼女は宇宙を旅している。宇宙をぐるぐる回って、そして一定の周期で私の星を訪れる

少女　　え？　それって

王様　　彼女は彗星なんだ。私はその彗星を追いかけている

少女　　彗星

狐　　　じゃあ待ってれば戻って来るんじゃないの？

王様　　私は百年も待ってられない

少女　　何とか連絡取れないの？　そういう機械とかないの？

狐　　　そうだよ。携帯電話とかないの？

王様　　そんなに遠くまで電波を飛ばす技術はないな

少女　　テレパシー、届かないかな

狐　　　テレパシー？

少女　　王様はテレパシーが使えるんだよ

狐　　　本当？

少女　　でも触ってないとダメなんだ

狐　　　どうやるの？

王様　　手を出してごらん

狐　　　こう？

　　王様、狐の手を握る。

狐　　　「バカ」って言われた

王様　　これがテレパシーだ

狐　　　「バカ」って言われた

少女　　触って熱を伝えるんだって

狐　　　バカって言う方がバカなんだぞ

王様　　黙れバカ

狐　　　コーン

少女　　これだと触ってないとダメでしょ？　離れた相手にテレパシー送れないの？

王様　　送れる、かもしれない

少女　　本当？

王様　　古い文献で読んだことがある。本当のテレパシーは心臓の鼓動を伝えるんだ

狐　　　心臓？

王様　　前にも言った通り、伝えるのは振動と熱だ。心臓は体の中で一番強い振動と熱を持っている

狐　　　うん

王様　　心臓の鼓動に自分の気持ちを乗せれば、どんな離れた相手にも思いを伝えることができる

狐　　　本当？

　　狐、やってみる。

狐　　　聞こえた？

王様　　聞こえない

狐　　　もう一回やってみる

　　狐、「バカ」と叫ぶ。

狐　　　聞こえた？

王様　　聞こえた

狐　　　やった

少女　　今のって喋っただけだよね

狐　　　うん

少女　　テレパシーじゃないよね

狐　　　うん

王様　　バカめ

狐　　　うるさいバカ

王様　　と、まあ、こんなことが本当にできるとは思えない。ただの迷信だ

少女　　何だ

狐　　　使えない奴

王様　　うるさい、食うぞ

狐　　　嫌だ

少女　　テレパシー、使えたらいいね

狐　　　え？

少女　　どんなに離れてても会話ができるって、気持ちが通じ合ってるみたいでいいよね

王様　　そうだな

少女　　その人、今どのあたりにいるんだろう？

王様　　目指すはオールトの雲だ

少女　　オールトの雲？

狐　　　何それ？

王様　　彗星の故郷と言われている場所だ

少女　　へえ

王様　　彗星はオールトの雲からやってくる。ただしそれはこの太陽系の話

狐　　　どういうこと？

王様　　たとえば、この辺りで有名な彗星はあるか？

狐　　　ハレー彗星とか、ヘール・ボップ彗星？

少女　　よく知ってるね

王様　　それらの生まれ故郷はきっとオールトの雲だよ

狐　　　宇宙に雲があるんだ

王様　　まだ誰も行ったことのない、彼女の故郷に行ってみたい

少女　　どんなところなんだろうね

王様　　きっと素敵なところだ

狐　　　でも、その人、そこにいるかどうか分からないでしょ？

王様　　うん。でも手がかりはつかめるかもしれない。彗星の軌道を予測して、彼女を追いかけるんだ

狐　　　追いつけるの？

王様　　追いつくさ。きっと追いつける

少女　　また会えるといいね

王様　　ああ

【７】

　　夕方。王様と狐が遊んでいる。

王様　　来ないな

狐　　　うん、来ないね

王様　　少女は、今日はどうしたんだ？

狐　　　学校行くって言ってたよ

王様　　学校か

狐　　　夕方には来るって言ってたと思うけど

王様　　少女が来ないとつまらないな

狐　　　そう？

王様　　お前は楽しいのか？

狐　　　うん、楽しいよ

王様　　お前は脳天気でいいな

狐　　　でも、あの子がいた方が楽しいよね

王様　　ははん。そうだろう

　　少女、登場。

少女　　ハロー。お待たせ

狐　　　ハロー

王様　　ハロー。遅かったな

少女　　学校行ってたんだもん。仕方ないでしょ

王様　　学校では何をしているんだ？

少女　　勉強

王様　　どんな勉強だ？

少女　　どんなって、国語とか数学とか

王様　　国語？

少女　　ああ、日本語についてかな

王様　　この国の言語だな。言語学か

少女　　言語学っていう程じゃないけど。小説読んだり、評論文読んだり

王様　　文学と論理学か

少女　　そうかな。ずいぶん難しい言い方するね

王様　　そうか？

少女　　王様の国ではどんな勉強するの？

王様　　自然科学の分野が発達している。天文学や地質学、動植物の生態について学ぶ

少女　　ふーん

王様　　それから論理学だな。弁証法を学んで政治学や社会学に発展させる

少女　　難しそう

王様　　おもしろいぞ

狐　　　王様って頭良いの？

王様　　当然だろう。王様だぞ

狐　　　へえ

王様　　全然そう思ってないだろ

狐　　　うん

王様　　まあいい。お茶にしよう

少女　　お茶？

王様　　おいしい紅茶をごちそうしよう

少女　　本当？

王様　　ほら、狐、手伝え

狐　　　分かった

少女　　私も手伝う

　　三人、お茶の用意をする。

王様　　紅茶を淹れていて気になることがあるのだが

少女　　何？

王様　　緑茶に砂糖は入れないのか？

少女　　淹れない

王様　　なぜだ？

少女　　緑茶は苦いのがいいの

王様　　そういうものか

少女　　そういうものだよ

　　三人、お茶を飲む。

少女　　不思議の国のアリスみたいだね

王様　　何だそれは？

少女　　ルイス・キャロルのお話

王様　　どんな話だ？

少女　　アリスっていう女の子がいて、白い兎を追いかけていくうちに不思議の国に迷い込んでしまうっていうお話

狐　　　お茶の会をするんだよね

王様　　おもしろそうな話だ

少女　　おもしろいよ

王様　　では君がアリスというわけか

少女　　確かに、不思議の国に迷い込んでる気分ね

狐　　　王様はイカレ帽子屋だね

王様　　だれがイカレポンチだ

狐　　　そんなこと言ってないよ

少女　　そういうのが出てくるの

王様　　そうなのか

少女　　帽子屋と、三月兎と、眠り鼠とお茶の会をするの

王様　　一人足りないぞ

狐　　　あの女の人も呼ぼうよ

少女　　それ、いいね

王様　　え？

少女　　呼んでよ。会ってみたい

王様　　呼ぶって言っても、どうやって呼ぶんだ

少女　　テレパシー使ったらいいんじゃない？

王様　　使えない

少女　　やってみてよ

王様　　無理だ

狐　　　どうして？

王様　　だって、できないんだから

少女　　そっか

王様　　だからこうやって会いに行くんだ

少女　　宇宙船のエネルギーは溜まった？

王様　　もう少しだ

少女　　もう少しで行っちゃうんだね

王様　　そうだな

少女　　会いたい？

王様　　え？

少女　　あの人に会いたい？

王様　　ああ

狐　　　どうしたの？

少女　　手を出して

王様　　え？

少女　　ねえ

王様　　ああ

　　少女、王様の手を握る。

少女　　聞こえた？

王様　　いや

少女　　そうだよね

狐　　　どうしたの？

少女　　帰るね

王様　　え？

少女　　何かドキドキしてきちゃった。紅茶飲んだせいかな

王様　　おい、どうしたんだ

少女　　出発するときは教えてね

王様　　ああ

少女　　お別れパーティーやろうね

王様　　ああ

少女　　さよなら

　　少女、退場。

王様　　紅茶を飲むとドキドキするのか？

狐　　　さあ？

王様　　一体どうしたんだ？

狐　　　さあ？

【８】

　　夕方。王様と狐が遊んでいる。

王様　　遅いな

狐　　　そうだね

王様　　いつもならもう来ていい頃だが

狐　　　何か用事でもあるんじゃない？

王様　　そうか

狐　　　気になるの？

王様　　そんなことはないぞ

狐　　　どうしたの？

王様　　何がだ？

狐　　　ソワソワしてるよ

王様　　そんなことはないぞ

狐　　　ソワソワしてる

王様　　そんなことはない

狐　　　してるよ

王様　　してない

狐　　　してる

王様　　これは、その、ムラムラしてるだけだ

　　間。

王様　　すまん、今のは私が悪かった

狐　　　いや、気にしてないからいいよ

　　間。

狐　　　宇宙船のエネルギー、溜まったんでしょ？

王様　　ああ

狐　　　行くんだよね？

王様　　ああ

狐　　　自分の星にも帰らなきゃいけないよね

王様　　ああ

狐　　　ねえ、ここにいなよ

王様　　ここに？

狐　　　僕、王様といると楽しいよ

王様　　そうか

狐　　　あの子もきっとそうだよ

王様　　そうか

狐　　　王様はどうしたいの？

王様　　どうしたい？

狐　　　うん。どうしたいの？

王様　　どうしたいんだろうな

　　間。

王様　　不思議の国のアリスを読んだよ

狐　　　え？

王様　　メチャクチャな話だった

狐　　　うん、そうだね

王様　　おもしろかったよ

狐　　　そっか

王様　　ここにいるのも悪くない。でも行かなきゃならん

狐　　　あの子はどうするの？

王様　　どうするとはどういうことだ？

狐　　　僕、王様とあの子が一緒にいるのを見ると、何だか嬉しくなるんだ

王様　　そうか

狐　　　だから、もう少しでいいからここにいてよ

王様　　私の居場所はここではない

狐　　　でも

王様　　少女は大人になるだろ

狐　　　え？

王様　　少女はいつか大人になるだろ

狐　　　うん

王様　　そのとき、私はここにいてはいけない

狐　　　どうして？

王様　　私はあの子にとっておとぎ話みたいなものだ

狐　　　どういうこと？

王様　　そういうことだ

狐　　　よく分からないよ

王様　　明日出発する

狐　　　明日？

王様　　約束したんだ。会いに行くって

狐　　　どうしても行くの？

王様　　ああ

狐　　　じゃあお別れパーティーしないとね

王様　　いや、少女には言わないでおこう

狐　　　どうして？

王様　　お別れは寂しいだろ？

狐　　　でも

王様　　寂しいから言わないでおこう

狐　　　そうだね

　　間。

狐　　　明日、見送りに来るよ。いいよね？

王様　　ああ。ありがとう

【９】

　　回想。

　　王様がいる。女、登場。

女　　　ハロー

王様　　ハロー。待っていたぞ

女　　　そう。ありがとう

王様　　さあ、お話を聞かせてくれ

女　　　ごめん、今日はダメなの

王様　　どうした？　具合でも悪いのか？

女　　　そうじゃない

王様　　じゃあどうして？

女　　　お別れを言いに来たの

王様　　お別れ？

女　　　もう行かなきゃ

王様　　待て。随分急じゃないか

女　　　そんなことないよ。最初から決まってたの

王様　　お話はもう聞けないのか？

女　　　ごめんね

王様　　話が中途半端なままじゃないか。桃太郎はどうなるんだ？

女　　　ごめん

王様　　どこへ行くんだ

女　　　私は宇宙を旅してるの。ここへはちょっと寄っただけ

王様　　もう来ないのか

女　　　また来るよ。でもそれはずっと先の話。王様、待ってられないよ

王様　　待ってる。話の続きを聞かせてくれ

女　　　もうダメだよ

王様　　どうしてもか？

女　　　どうしても

　　間。

女　　　さよなら

王様　　私も連れていってくれ

女　　　連れて行く？

王様　　そうだ

女　　　そんなことできない

王様　　分かった。じゃあ私から会いに行こう

女　　　え？

王様　　宇宙船を作る。そしたら会いに行ける

女　　　私はずっと遠くへ行くんだよ？

王様　　構わない

女　　　困ったな

王様　　約束だ。必ず会いに行く

女　　　分かった。待ってる

【10】

　　狐がいる。少女、登場。

少女　　ハロー

狐　　　ハロー

少女　　王様は？

狐　　　いないよ

少女　　どこか行ったの？

狐　　　もういないんだ

少女　　どういうこと？

狐　　　行っちゃった

少女　　行っちゃったって、本当に？

狐　　　うん

少女　　どうして？

狐　　　もう行かなきゃいけないって

少女　　でも、何も言わないで？

狐　　　お別れは寂しいからって

少女　　でも、そんなのひどいよ

　　間。

少女　　何も言わないで行っちゃう方が寂しいと思わない？

狐　　　そうかもしれないね

少女　　王様、何か言ってた？

狐　　　君によろしくって

少女　　それだけ？

狐　　　それだけ

少女　　お別れパーティーしようって言ったのに

狐　　　ごめん

少女　　君が謝らなくてもいいよ

狐　　　でも

少女　　だって、勝手にいなくなったんでしょ

狐　　　うん

少女　　ひどいよね

狐　　　うん

少女　　何か拍子抜けしちゃった。何だったんだろうね？　あの人

狐　　　分かんない。でも

少女　　でも？

狐　　　僕は楽しかったよ

少女　　私も楽しかったよ

狐　　　うん

少女　　最初に会ったときはメロンパン食べられて怒ったけど、すぐに仲良くなって。ちょっと変わってて、自分中心で、生意気で、偉そうで、でも憎めなくて

狐　　　僕、王様のこと好きだよ

少女　　私も好きだよ

狐　　　一緒に行きたかった？

少女　　え？

狐　　　何？

少女　　考えたこともなかった

狐　　　そう？

少女　　そういう手もあったね

狐　　　追いかけたら？

少女　　宇宙船がないよ

狐　　　作ったらいい

少女　　私にはちょっと無理かな

狐　　　そうだね

少女　　王様、あの女の人を追いかけていったんでしょ？

狐　　　うん

少女　　もうちょっと私のことも気にかけてくれたらいいのに

狐　　　あの人、そんな器用なことできないよ

少女　　そうだね

狐　　　ねえ、あのとき、何て言ったの？

少女　　あのとき？

狐　　　テレパシー、使ったでしょ

少女　　使えなかったよ

狐　　　何て言ったの？

少女　　内緒

狐　　　内緒なの？

少女　　伝わらなかったから

狐　　　うん

少女　　でもね、手、温かかったよ

狐　　　手？

少女　　手

狐　　　そっか

少女　　テレパシー、使えないかな？

狐　　　テレパシー？

少女　　王様が言ってたみたいに、どんなに離れてても声が届くの。言いたいことが今すぐ言えるの

狐　　　どんなこと言いたいの？

少女　　バカヤローって

狐　　　聞こえるかな？

少女　　心臓の鼓動を届けるんだよ。ハロー、王様、聞こえますか？

狐　　　ハロー、聞こえますか？

少女　　ハロー

狐　　　ハロー

少女　　私、聞きたいこといっぱいあったよ。言いたいこともいっぱいあるよ。帰るときは挨拶ぐらいしていけ。ねえ、また会いに来てくれる？　会いに来てね、約束だからね。ハロー、聞こえる？　聞こえたら返事しろ、バカヤロー。ハロー

　　終わり。

【参考】

「星の王子さま」サン＝テグジュペリ

「千夜一夜物語」

「不思議の国のアリス」ルイス・キャロル